

「ともだち」

あした なつやす しゅうぎょうしき こうちょうせんせい あした なつやす ちか かいがん ゆうえいきんし
明日から夏休み。終業式のあいさつで、校長先生は「さあ、明日から夏休みに入りますが、近くの海岸は遊泳禁止
になっているのはみんな知っていますね？とても危険です。海水浴に行っははいけませんよ！」と注意をしました。

しょうがく わんせい なつやす なに あそ
小学3年生のサトシくんは「夏休みがはじまるなあ！何をして遊ぼうかな！」とわかれていました。
その日の帰り道、仲良しのタロウくんとタカシくんに「ねえねえ！明日三人で海に行かない？ゼツタイ楽しいよ～！」とサ
トシくんは言いました。タロウくんは「いいねえ！明日はお天気もよさそうだし、みんなで行こうよ！」とすぐに賛成しまし
た。タカシくんは「校長先生もダメって言ってたし、どうしようかな…」と考えていましたが、「三人のヒミツにしとけば
ばれないよ！」「ねえ行こうよ！」と誘うサトシくんとタロウくんに押されて、三人で海水浴に行く約束をしてしまいま
した。

つぎ ひ は かぜ すこ つよ ひ さんにん てんきよほう み どう かあ
次の日になりました。よく晴れていましたが、風が少し強い日でした。三人は天気予報を見ることもなく、お父さんお母
さんにも、どこに行くと行き先も言わずに、海岸に出かけました。海にはだれもいませんでした。校長先生が注意したよ
うに、海岸の入口には「遊泳禁止！この海で泳いではいけません！」と書かれた看板が立っています。三人は看板を気
にすることなく、海で泳ぎ始めました。

おお なみ さんにん なみの こ わざ あそ
少し大きめの波がくるのがおもしろくて、三人はジャンプして波を乗り越えたり、ふざけてプロレスの技をかけたりして遊
んでいました。

さんにん なみう あそ とつぜん じぶん せ たか おお なみ
しばらく三人で波打ちぎわで遊んでいましたが、突然、ザブーン！自分たちの背よりも高い、大きな波がやってしま
した！あっという間に三人は足を取られ、速い流れにのみこまれてしまいました！もがいてももがいても、どちらが上なのか下
なのかわからず、海にもみくちやにされてしまいました。鼻や口に水が入ってきて、「苦しい…！息ができない…」もともと
泳ぐのが得意ではなかったタカシくんは、助けを呼ぶこともできないまま、海の底に引きずりこまれていきました。

サトシくんとタロウくんは、もがいているうちに、運よく海面に顔を出し息をすることができました。波にもまれながら、
なんとか必死に手足を動かして泳いでいるうちに、足がつくところまで来て、砂浜に体を投げ出すことができました。二人は
自分たちが助かることだけで精一杯でした。何とか助かったサトシくんとタロウくん。「タカシくんは？」そのときになって
やっと二人は、タカシくんがいないことに気がつきました。

サトシくんは、「もう一度海に入って、タカシくんをさがそうよ！」と言いました。二人は腰まで海につかって「タカシく
ん！タカシくん！」と沖の方に向かって何度も何度もさげましたが、返事があるはずもありません。タロウくんは途中で
何度もかえ かい し い べんじ とちゅう
何度か「帰って、だれかおとなの人に知らせようよ！」と言いましたが、サトシくんが夢中でさげているので、一緒になっ
てタカシくんの名前を呼んでいました。どれだけ時間が経ったのでしょうか？探しかれた二人は、海岸から一番近い家に行
き、助けをもとめました。

いちばんちか いえ かいじょうほあんちやう しょうがっこう れんらく きんじよ ひと こえ かいがん はし
一番近くの家のおじさんは、すぐに海上保安庁と小学校に連絡し、近所の人たちにも声をかけると海岸に走ってき
て、タカシくんを探してくれました。

ご かいがん かいじょうほあんちやう ひと がっこう せんせい きんじよ ひと なんにち なんにち
その後、海岸にかけつけた海上保安庁の人たちや学校の先生たち、近所の人など、たくさんの人たちが何日も何日も
タカシくんを探しましたが、タカシくんは見つかりませんでした。

タカシくんが帰ってくることは、もうないのです。



こえ はまもと れいか ろうどくか
声：浜本麗歌 さん（朗読家）

音源はこちらからダウンロードしてください



かんがえてみよう！

じこをふせぐにはどうしたらよかったですでしょうか？

「保護者のみなさまへ」

～海水浴を安全に楽しむには～



飲酒したら海に入らない。遊泳禁止区域では泳がない。離岸流にご注意を。

「遊泳」に関連した令和元年（2019年）の事故者は269人で、マリンレジャー事故者全体の34%を占めています。

「遊泳」事故の内容を見ると、最も多いのは「溺水」、つまり水に溺れた事故で、「遊泳」の46%を占めています。次いで「帰還不能」、つまり沖合へ出過ぎたり潮に流されたりして岸に戻れなくなった事故が42%、クラゲなど有毒生物や岩、他の遊泳者との接触などによる「負傷」が9%となっています。

事故を防いで安全に遊泳するために、特に次のような点にご注意ください。

- 1) 管理された場所で泳ぐ
海で泳ぐ場合は、常に監視員やライフセーバーがいる海水浴場などの管理された場所で泳ぐようにしましょう。
- 2) 海にいる危険な生物に注意
海には、クラゲやエイなど、危険な海洋生物がたくさんいます。これらの危険生物に刺されたりした場合は、すぐに海から出て、病院などの医療機関に行きましょう。
- 3) 海が荒れているときは泳がない
波が高いときや流れの速いときは危険ですので、絶対に泳がないようにしましょう。
- 4) お酒を飲んだら泳がない
人はお酒（アルコール）が体内に入ると、判断力や集中力（注意力）の低下や、運動能力の低下などが引き起こされ、本来の泳力が低下し、溺れやすくなります。お酒を飲んだ状態で海に入るとは、溺れやすくなるとともに、溺れたときの死亡率も高くなります。お酒を飲んだら海に入らないことを徹底しましょう。
- 5) 子どもから目を離さない
子どもは危険が近づいていても察知することができません。思いがけず小さな波でも足をすくわれ、溺れることがありますので、保護者の方は常に子どもから目を離さないようにしましょう。小さな子どもには、体に合ったライフジャケットなどを必ず着せましょう。
- 6) 自分の体調には素直に耳をかたむけて
自分の体調を把握し、疲労や睡眠不足を感じたら海に入らないようにしましょう。また、海に入る際は、準備運動を念入りに行いましょう。

大切な命、自分で守る！自己救命策の確保「3つの基本」

ライフジャケット
の着用

連絡手段の確保
防水パック入りの携帯電話
を持ちましょう

もし海で事故が
あったら緊急電話
118番へ救助要請



お問い合わせ

第十管区海上保安本部

〒890-8510 鹿児島県鹿児島市東部元町4-1
(交通部安全対策課) 099-250-9800



うーみん うみまる
海上保安庁のイメージキャラクター

海で安全に
楽しんでね